

1 取組の概要及び成果等

(1) 取組の概要

平成19年1月15日から19日までの間、4泊5日の宿泊を伴う体験学習を実施した。宿泊施設と学校を往復しながら、寝食を共にすることで生徒相互の、あるいは生徒と教職員との交流を深めた。また、家庭を離れて生活することにより、親や家族の大切さを再認識する機会となってくれることをねらった。

(2) 特に工夫や配慮をした事項

○ 絵てがみ

木の葉をはじめ、いろいろな植物を顔彩を使って丁寧に描いたり、宿泊施設での生活の様子を描いたりした。また、家族に対して日頃言えない感謝の気持ちを短い言葉で書き添え、一人一人が家族を思いながら味わいのある作品を完成させ、投函することができた。

○ クラス劇

各クラス15～20分程度の劇を披露した。キャストをはじめ、脚本を書く生徒ダンスを考え指導する生徒、大道具を作る生徒、証明や音響を担当する生徒、コンピュータを使用して効果を上げる生徒等、様々な役割を一人一人が担い、責任をもって作り上げる姿が見られた。

○ オリエンテーリング

直線距離約7kmのコース（6ポイント）を6～7名の男女混合グループで行動し、地図を見ながら、山道や田畑の小道を協力をしてポイントを探し当てていた。最後まで弱音を吐かず、諦めることなく協力して行動できた。

(3) 成果等

クラスや学年のまとまりを強め、友だちの良さに気づくということに重点を置いて活動を計画し、成果を得ることができた。また、家族に対する感謝の気持ちを持ち、家族を大切に思う心も育った。

一人ひとりが自分の役割に責任をもって行動することができた。特に、各クラスより選出された24名の実行委員の生徒は、本部（委員長1名、副委員長、2名）、宿泊部、生活部、しおり作成部、広報部、レクリエーション部に分かれて仕事を進め、学年のリーダーとして成長してくれた。4泊5日という長期の宿泊体験学習の中で、生徒が自分のめあてに向かって最後まで取り組む姿にたくましさを感じた。

2 学校の推進体制と学校支援委員会の活動

(1) 学校の推進体制と学校支援委員会の活動の概要

学校支援委員会を行い、実施内容の検討と協力体制の確認を行った。また、冬季休業期間を利用して、宿泊施設を担当学年職員が全員で訪問し、施設設備の確認や担当者との打ち合わせを綿密に行い、計画をより細かに立てることができた。

(2) 成果等

教職員による校内サポート体制を整え、他学年教職員の協力を得られたことで、充実した内容で実施することができた。夜間の病気やケガ等に備えて、看護師や指導員を配置することができた。また、養護教諭が施設に待機できない時には、外部の看護師の資格を持つ方に協力いただいた。養護教諭と看護師との連絡がスムーズに行えるよう、施設及び学校での健康観察の様子をまとめた一覧票を作成して実施したため、病気等で病院へ行ったり、途中で帰宅する生徒が一人もいなかった点はよかった。

3 今後の課題と改善点

(実施後の生徒及び保護者からのアンケートに記載されてる内容)

- 風邪が流行する時期であったり、冬場で荷物が多くなるなどの点から、実施はもっと早い時期、あるいは夏休みがよい。
- 体験内容としては、キャンプファイヤー・きもだめし・周辺の散歩・絵手紙ではない親への手紙・ナイトハイク・筑波山登山・学校まで歩く・他校との交流などの意見があった。
- 学校の教職員による支援体制を整備していくことが必要である。
- 体験内容の見直しをしながら、豊かな体験が数多くできるよう生徒や保護者の意見も取り入れながら検討していく。